

# 龍谷大学大学院 政策学研究

The Bulletin of the Graduate School of Policy Science,  
Ryukoku University

第9号

## ■2019年度修士論文■

ベッドタウンから職住調和都市への転換に関する一考察 ——京都府城陽市を中心にして——	今西 仲雄
地域社会における民生委員の歴史の変遷と今日の変容	植村 暢子
琵琶湖での水草有効活用の課題と可能性 ——中海、宍道湖との比較を通して——	金森 祐樹
大阪市内の地域活動協議会における新規事業創出要因の考察	川畑 恵子
公民連携オガールプロジェクトがもたらす地域への効果と今後の展開についての考察	中田 光瑠
社会課題に取り組む「担い手」拡大の契機をめぐる研究 ——「気づき」をうながし「実践」をすすめる過程と要素——	中野ともみ
障害福祉行政における情報提供のあり方	中橋 晃季
「地域志向型 SIB」の意義と課題に関する考察	野口 裕加
廃プラスチック削減に向けた政策の課題に関する研究 ——京都市と亀岡市を事例として——	馬 建

# 龍谷大学大学院 政策学研究

第9号

龍谷大学大学院政策学研究編集委員会

---

# 目 次

---

## 修士論文

ベッドタウンから職住調和都市への転換に関する一考察 ——京都府城陽市を中心にして——	今西 仲雄 ( 1 )
地域社会における民生委員の歴史的変遷と今日の変容	植村 暢子 ( 25 )
琵琶湖での水草有効活用の課題と可能性 ——中海、宍道湖との比較を通して——	金森 祐樹 ( 43 )
大阪市内の地域活動協議会における新規事業創出要因の考察	川畑 恵子 ( 61 )
公民連携オガールプロジェクトがもたらす地域への効果と今後の展開についての考察	中田 光瑠 ( 81 )
社会課題に取り組む「担い手」拡大の契機をめぐる研究 ——「気づき」をうながし「実践」をすすめる過程と要素——	中野ともみ ( 111 )
障害福祉行政における情報提供のあり方	中橋 晃季 ( 131 )
「地域志向型 SIB」の意義と課題に関する考察	野口 裕加 ( 145 )
廃プラスチック削減に向けた政策の課題に関する研究 ——京都市と亀岡市を事例として——	馬 建 ( 171 )
修士論文要旨	( 191 )
2019年度修士論文・課題研究題目	( 213 )

## 2019年度 修士論文・課題研究題目

	題 目	修 了 生
修士論文	ベッドタウンから職住調和都市への転換に関する一考察 ——京都府城陽市を中心にして——	今 西 仲 雄
修士論文	地域社会における民生委員の歴史的変遷と今日の変容	植 村 暢 子
修士論文	琵琶湖での水草有効活用の課題と可能性 ——中海、宍道湖との比較を通して——	金 森 祐 樹
修士論文	大阪市内の地域活動協議会における新規事業の創出要因の考察	川 畑 恵 子
課題研究	京都市における中小印刷業者の今後の方向と自治体の産業政策	京 藤 博 行
修士論文	公民連携オガールプロジェクトがもたらす地域への効果と 今後の展開についての考察	中 田 光 瑠
修士論文	社会課題に取り組む「担い手」の拡大は何によって起こるか ——「気づき」をうながし「実践」をすすめるものは何か——	中 野 ともみ
修士論文	障害福祉行政における情報提供のあり方	中 橋 晃 季
修士論文	受動喫煙防止対策法制に対する憲法論的検討 ～経済活動における人格的価値の可能性～	並 羅 聡 志
修士論文	「地域志向型 SIB」の意義と課題に関する考察	野 口 裕 加
修士論文	ブリュッセルの公共空間におけるテラス席等の私的利用に関する考察	原 田 麻也子
修士論文	SDGs 達成に向けてのパートナーシップに関する研究 ——北海道下川町・京都府舞鶴市・大阪府富田林市の事例を比較して——	樋 口 育 弘
修士論文	障害者の「自立」と「労働」に関する一考察 ～70年代以降の実践史を中心に～	藤 井 敦
修士論文	廃プラスチック削減に向けた政策の課題に関する研究 ——京都市と亀岡市を事例として——	馬 建
修士論文	新聞紙における「記事体広告」の社会的役割 ——全国紙滋賀県版での市民活動支援広告の事例から——	水 野 光 浩
修士論文	プロセスアプローチによる子ども虐待予防のための行政制度の課題 ——日本とフィンランドの子育て世代支援制度の比較——	山 川 勝 也
修士論文	LOIS 型企業の育成による小規模農業の活性化に関する研究 ～滋賀県湖南市「みらい公園湖南プロジェクト」を事例に～	山 元 達 俊

## 執筆者紹介 (掲載順)

今 西 仲 雄	本学政策学研究科修士課程修了
植 村 暢 子	本学政策学研究科修士課程修了
金 森 祐 樹	本学政策学研究科修士課程修了
川 畑 恵 子	本学政策学研究科修士課程修了
中 田 光 瑠	本学政策学研究科修士課程修了
中 野 ともみ	本学政策学研究科修士課程修了
中 橋 晃 季	本学政策学研究科修士課程修了
野 口 裕 加	本学政策学研究科修士課程修了
馬 建	本学政策学研究科修士課程修了
京 藤 博 行	本学政策学研究科修士課程修了
並 羅 聡 志	本学政策学研究科修士課程修了
原 田 麻也子	本学政策学研究科修士課程修了
樋 口 育 弘	本学政策学研究科修士課程修了
藤 井 敦	本学政策学研究科修士課程修了
水 野 光 浩	本学政策学研究科修士課程修了
山 川 勝 也	本学政策学研究科修士課程修了
山 元 達 俊	本学政策学研究科修士課程修了

## 龍谷大学大学院『政策学研究』内規

制 定 2011年9月28日  
一部改正 2012年6月6日

### (目的と名称)

第1条 龍谷大学大学院政策学研究科院生の学術研究の奨励及びその成果の発表のため、学術雑誌を年1回発行する。

2 この学術雑誌を『政策学研究』と称する。

### (『政策学研究』の構成)

第2条 『政策学研究』には、修士論文、課題研究及びその他の研究成果（以下「論文」という。）並びに修士論文要旨及び課題研究要旨（以下「要旨」という。）を掲載する。

### (論文提出資格)

第3条 『政策学研究』に掲載する論文を提出する資格を有する者は下記のとおりとする。

- ① 大学院政策学研究科在籍者。
- ② 大学院政策学研究科修了者。
- ③ その他編集委員会が認めた者。

### (編集委員会)

第4条 『政策学研究』の編集に関する事項を管掌するため、『政策学研究』編集委員会（以下「委員会」という。）をおく。

- 2 委員会は、大学院政策学研究科所属の専任教員2名により構成する。
- 3 委員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。
- 4 委員会に委員長をおく。委員長選出は委員の互選による。
- 5 委員会の招集は、委員長がおこなう。

### (論文及び要旨の掲載手続)

第5条 論文は、委員会の定めた募集要項に基づき、本内規第3条に該当する者よりこれを公募する。

- 2 前項の論文のうち、原則として修士課程における指導教員の推薦に基づき、委員会が承認したものを掲載する。
- 3 要旨は、原則として前年度修士課程修了者全員の修士論文要旨及び課題研究要旨を掲載する。

### (論文及び要旨の電子化及びインターネットでの公開)

第6条 「政策学研究」に掲載された論文及び要旨は、原則として電子化し、龍谷大学図書館ホームページ、機関リポジトリ等を通じてインターネットに公開する。

### (著作権)

第7条 論文及び要旨の著作権は、その著作者が保持する。

- 2 論文及び要旨の著作者は、著作権の行使を龍谷大学に許諾するものとする。ただしこの許諾は、執筆者の人格権に影響を及ぼすものではない。
- 3 前項の許諾は、論文及び要旨の原稿が提出された時点で行われたものとする。
- 4 論文及び要旨における既存の著作物の利用（引用・転載等）に関し権利者との間に生じた紛争については、著作者がその任にあたる。

### (事務)

第8条 『政策学研究』に関する事務は、研究部がおこなう。

### 付 則

この規程は、2011年9月28日より施行する。

付則（2012年6月6日第6条、第7条、第8条改正）

この規程は、2012年6月6日より施行する。

龍谷大学大学院政策学研究 第9号

2020年10月20日 発行

編集 龍谷大学大学院政策学研究編集委員会  
発行 京都市伏見区深草塚本町67

印刷 株式会社 富山房インターナショナル  
京都市南区吉祥院池田南町13

# The Bulletin of the Graduate School of Policy Science, Ryukoku University

## Articles

A study on the transition from bedroom community to a city where work and living coexist in harmony:  
With focus on Joyo City, Kyoto Prefecture.

Nakao IMANISHI

Historical and contemporary changes of MINSEI-IIN in local communities

Nobuko UEMURA

Issues and possibility of good use of aquatic plants in Lake Biwa:  
Through comparison with Lake Nakaumi and Lake Shinji

Yuki KANAMORI

Consideration of factors for creating new projects in Association for Community Development in Osaka city

Keiko KAWAHATA

A study on Regional Impacts and Future Developments by OGAL Project Completed with Public-Private Partnership

Hikaru NAKATA

A study of the opportunities for expansion of "actor" working on Social Issues:  
The process and factors which facilitate actor's "awareness" into "practice"

Tomomi NAKANO

A study on the providing information of the social welfare for disabled people

Koki NAKAHASHI

Consideration on the significance and issues of "region-oriented SIB"

Yuka NOGUCHI

A Study on Issues of Plastic Reduction Policy:  
Focusing on the Case Study of Kyoto City and Kameoka City

Jian MA